

交通死亡事故に繋がる危険因子の特定 と予防策に対する研究

青山学院大学理工学部
情報テクノロジー学科Dürst 研究室

学籍番号：15822100

原田 裕大

目 次

第 1 章 はじめに	1
第 2 章 基礎・関連	3
2.1 定義	3
2.1.1 誤字小説	3
2.1.2 Web 関連情報	4
2.2 参照	4
第 3 章 実装	5
3.1 ズズズズズ	5
3.1.1 野生の豹と飼育された豹	5
3.1.2 完全実装	7
3.2 ソースコードの裏の裏の裏	7
3.3 文献データベースと BibTeX	8
第 4 章 評価	9
4.1 箇条書きの回避	9
4.1.1 実検実権実験	9
4.1.2 実験	10
4.2 庭での実験	10
第 5 章 まとめ	11
謝辞	12
参考文献	13
付録	13
付録 A	
第 123 回情報処理学会全国大会発表論文	A-1
chapter 付録 B	
質疑応答 B-1	

第1章 はじめに

本章では、本研究を始めるにあたっての動機、および本論文の構成を示す。

Knuth はすごい [?]。Knuth の昔の論文です [?]。Lamport もすごい [?]。Lamport の最近の論文です [?]。

気、ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、
ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、
ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、
ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、
ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、
ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、
ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、
ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣。

ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、
ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、
ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、
ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、
ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣、ほげ、ホゲ、保氣。

第2章では、本研究で考える○○の概念について述べる。第3章で高速処理の
ミソを定義し、その実装手法を第4章でキモを語り、第5章でまとめてまとめる。

第2章 基礎・関連

アノテーションの定義と、アノテーションの内部データ構造を説明する [?].

2.1 定義

メタな記号 \$,

数式

$$\sum_{k=0}^{100} (\lfloor x^k \rfloor + 1)$$

2.1.1 謌字小說

用いる。模倣という構造を用いる。模倣という構造を用いる。模倣という構造を用いる。模倣という構造を用いる。模倣という構造を用いる。模倣という構造を用いる。模倣という構造を用いる。

2.1.2 Web 関連情報

模氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる。
模氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる。模
氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる。模
氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる。模
氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる [?].

2.2 参照

?? 節で述べた〇〇は黒い。特に ?? 項のはとても黒い。 ?? 項のはやや黒い。

第3章 実装

アノテーションの定義と、アノテーションの内部データ構造を説明する [?].

3.1 ズズズズズ

モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる [?]. モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる [?]. モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる [?].

モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。図 3.1 の長方形に角は四つである。本文中から必ず参照する。オプションについても調べた。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。

PowerPoint で図を作るときは、スライドサイズを先に指定すると余白が少なくなる。

モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。

3.1.1 野生の豹と飼育された豹

模氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる [?]. 模氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる。表 3.1 は豹ではなく表である。本文中から必ず参照する。オプションについては解説しない。

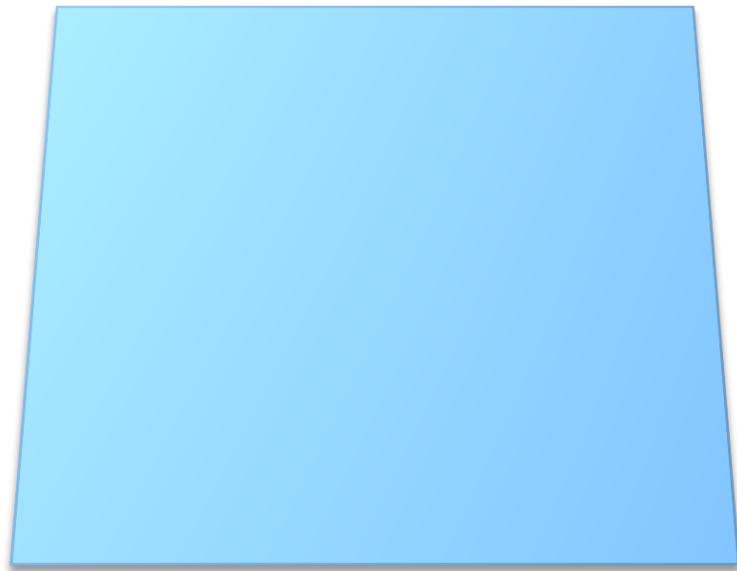


図 3.1: PowerPoint 上での矩形

表 3.1: 情報テクノロジー学科線路側研究室〇〇情報

研究室	場所	人数
佐久田研	O-YYY	5
原田研	O-XXX	7
Dürst 研	O-527	3
大原研	O-ZZZ	2

3.1.2 完全実装

3.2 ソースコードの裏の裏の裏

この着想のすべてはソースコード 3.1 で示すことができる。

```
1 def bmi (weight_kg, height)
2   if height > 20 # height in cm
3     weight_kg / (height/100.0)**2
4   else # height in m
5     weight_kg / height**2
6   end
7 end
```

ソースコード 3.1: bmi.rb (2011 年度プログラミング基礎 II 第八回)

3.3 文献データベースと BibTeX

文献データベース文献データベース文献データベース文献データベース文献データベース文献データベース文献データベースサードベース文献データベース文献データベース文献データベース文献データベース文献データベース文献データベース文献データベースファーストベース文献データベース文献データベースセカンドベースホームベース文献データベース文献データベース文献データベースホームベース文献データベースです。

第4章 評価

4.1 簡条書きの回避

モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。

- 1991 年の×△△△△△の AAA は秀逸であると感じた。
- 2001 年の△△△△△△の BBB がよかったです。
- 1997 年の△○×の CCC がややよかったです。

箇条書きは便利ですが、○○なので控える。論理的なごまかしや妥協につながる可能性があるかもしれないかもしれないと思うのかもしれない。表や地の文で書く。

モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。

4.1.1 実検実権実験

模氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる。

模氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる。模氣という構造を用いる。模

4.1.2 実験

4.2 庭での実験

結果は 100 である。結果は 100 である。結果は 100 である。結果は 100 である。
結果は 100 である。結果は 100 である。結果は 100 である。結果は 100 である。
結果は 100 である。結果は 100 である。結果は 100 である。結果は 100 である。
結果は 100 である。結果は 100 である。結果は 100 である。結果は 100 である。
結果は 100 である。結果は 100 である。結果は 100 である。結果は 100 である。

第5章 まとめ

謝辞

本論文を執筆するにあたり、多くの方々から多大なる御指導及び御助言を賜りました。このような研究の契機と環境を与えてくださり暖かくご指導して頂いた Martin J. Dürst 教授に心から感謝致します。温かい研究室の仲間たちに感謝します。みんなのおかげでここまでたどりつくことができました。ありがとう。

2022年 1月

参考文献

- [1] Wikipedia. Donald knuth — wikipedia, the free encyclopedia, 2015. [Online; accessed 25-May-2015].
- [2] D.E. Knuth and G.S. , Rao. Activity in an interleaved memory. *IEEE Transactions on Computers*, C-24(9):94, September 1975.
- [3] Wikipedia. Leslie lamport — wikipedia, the free encyclopedia, 2015. [Online; accessed 25-May-2015].
- [4] Leslie Lamport. Who builds a house without drawing blueprints? *Commun. ACM*, 58(4):31, March 2015.
- [5] David Flanagan and Yukihiko Matsumoto. *The ruby programming language*. " O'Reilly Media, Inc.", 2008.
- [6] Naohisa Goto, Pjotr Prins, Mitsuteru Nakao, Raoul Bonnal, Jan Aerts, and Toshiaki Katayama. Bioruby: bioinformatics software for the ruby programming language. *Bioinformatics*, 26(20):29, 2010.
- [7] Yukio Matsumoto and K Ishituka. Ruby programming language, 2002.
- [8] Hal Fulton. *The ruby way: solutions and techniques in ruby programming*. Addison-Wesley Professional, 2006.
- [9] Leonard Richardson and Sam Ruby. *RESTful web services*. " O'Reilly Media, Inc.", 2008.
- [10] Koichi Sasada. Yarv: yet another rubyvm: innovating the ruby interpreter. In *Companion to the 20th annual ACM SIGPLAN conference on Object-oriented programming, systems, languages, and applications*, page 158–159. ACM, 2005.

付録

- A. 第123回情報処理学会全国大会発表論文
- B. 質疑応答

付録 A

第123回情報処理学会全国大会発表
論文

付録 B

質疑応答

発表後の質疑応答

X 先生の質問（要約）

ZZZ は他のものと比べてどのような違いは何か？

解答

Y 先生の質問（要約）

FFF はどのようなものでそのメリットは？

解答